

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>

第188号 会 報 2006年4月20日

目	次
第235回運営委員会報告・・・・・・・・・・	1
会費納入についてのお知らせ・・・・・・・・	3
学生会員資格の更新・退会申請について・・	3
学会将来構想検討WGの総括・・・・・・・・	4
2005年EPS賞の報告・・・・・・・・・・	4
EPS電子版へのアクセス方法について・・	5
JGG誌の電子公開に伴う著作権の確認について	6
SGEPSSホームページ用ドメイン取得について	6
連合大会期間中の総会開催のご案内・・	7
2006年秋学会特別セッションの提案募集・・	7
アウトリーチ部会活動報告・・・・・・・・	7
学会リーフレットが完成しました・・	8
男女共同参画提言WG報告・・・・・・・・	9
国際学术交流事業補助金受領報告 栗原純一	10
国際学术交流事業補助金受領報告 松清修一	11
国際学术交流事業補助金受領報告 成行泰裕	11
関連研究集会のご案内・・・・・・・・	12
学術賞・研究助成のご案内・・・・・・・・	13
関連公募のご案内・・・・・・・・	14
学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール	15
SGEPSSカレンダー・・・・・・・・	15
賛助会員リスト・・・・・・・・	16

第235回運営委員会報告

日時：2006年3月2日（木）13:00～15:50
場所：東京工業大学大岡山キャンパス石川台地区
石川台2号館315号室

出席者（敬称略）：本蔵義守、歌田久司、小川康雄、山本衛、石川尚人、山崎俊嗣、臼井英之、木戸ゆかり、関華奈子、齊藤昭則、高橋幸弘、長妻努、河野英昭、中村正人、門倉昭、石井守
欠席者（敬称略）：野澤悟徳、北和之

1. 第234回運営委員会議事録を承認した。
2. 共催・協賛・後援の報告：
次の3件の承認の報告があった。（1）第23回レーザー・レーダ国際会議（協賛）、2006年7月24日から28日、奈良県新公会堂。（2）全国フォーラム2006（高校生天体観測ネットワーク）（後援）、2006年3月26日、休暇村 紀州加太。（3）2006年度高校生天体観測会（高校生天体観測ネットワーク）（後援）。

3. 会員関係

- （1）入退会審査：
次の4名の入会、3名の退会が承認された（敬称略）。
入会：正会員（一般）：亀屋暁人

正会員（学生）：堀久美子、植原稔
海外会員：E. A. Mohamad

退会：岩田晃、藤高和信、藤本博巳
会費未納分がある退会申請者については、会費納入督促連絡を再度行った後に退会処理することとした。

- （2）シニア会員申請審査：
次の5名のシニア会員申請を承認した（敬称略）。
河野長、小川徹、皆越尚紀、吉野登志男、小林和男

- （3）名誉会員推挙：
推挙候補者の確認を行った。

4. 会計関連：
（関連記事が、3ページにあります。）

- （1）会費滞納者への対策：
 - ・2006年1月17日、国内の3年以上滞納者に「最終勧告書」を送付した。再度連絡して応答がなければ退会扱いとする。
 - ・2006年1月20～23日、1～2年間滞納者にメール連絡した。
 - ・2006年2月8日、国内の1～2年間滞納者に再度手紙で督促。
 - ・海外会員滞納者への連絡は別途行う予定。
 - ・2月28日現在の納入率は75.8%。

(2) H17年度決算について：

- ・プロアクティブ社より現在の執行状況の報告を受けた。
- ・以下の項目について確認した：出版助成金収支、秋学会関連収支、英文許諾収支。
- ・アウトリーチ科研費の収支については特別会計扱いで報告してもらうこととした。

(3) 来年度の会費徴収システム：

- ・クレジットカード支払いシステムの導入を進める。海外会員対応として、3月中旬までにMMBの英語ガイドンス作成を行う。
- ・口座自動引き落としについては、多数の会員からの要望があり、プロアクティブ社からの調査報告を受け現在検討中。
- ・4通りの会費支払い方法（クレジットカード、口座自動引き落とし、コンビニ、銀行振込）について手数料を整理した。
- ・会費を支払ったどうか不明のための未納が多数あるので、MMBでステータス確認が出来るように現在改修中。
- ・振込用紙を全員に送付する方向で検討中。
- ・未納者への催促については、手順は従来通りとし時期を再検討する。

(4) その他：

- ・事務局で保管している書類が増えてきているので、破棄についての方針案を作成することとした。
- ・連合ニュースの送付方法について議論した。
- ・5月の連合大会時にもプロアクティブ社に窓口での対応を依頼することとした。
- ・秋学会予稿集のCD-ROM化について、プロアクティブ社からの見積りが示された。

5. 学会ホームページの外部サーバーへの移設について：

外部レンタルサーバーは、プロアクティブ社が使用した実績のある業者のものをを用いることとした。ドメイン名は、sgepss.or.jp（注：その後、sgepss.orgに変更されました）。3月中旬に契約し、連合大会までに静的なコンテンツの移設を行う予定。CGI系（掲示板、カレンダーなど）の移設、秋大会投稿システムとの連動などは今後の課題。（関連記事が、6ページにあります。）

6. 海外学術申請：

4名から申請があり、業績・発表内容について審議し、以下のように承認することとした（敬称略）。

派遣3名：多田訓子、上田義勝、石坂圭吾
招聘1名：Mimi J. Hill

7. 助成：

山田科学振興財団の研究援助候補推薦について議論し、3件の応募の中から2件について推薦することとした。

8. 学生発表賞：

5月の連合大会の際に、授賞式、及び次期事務局の編成についての議論、を行う予定。

9. 日本地球惑星科学連合関連：

- ・現在35学会が加盟。5月の連合大会への投稿総数は2700。AOGS、EGUと協定を結ぶ予定との現状報告があった。
- ・5月の連合大会時の、高校生によるポスター発表、大会ブース、他学会との合同セッション、などについての連絡があった。

10. アウトリーチ活動：

昨年秋学会最終日のイベントや科研費の使用内訳についての報告がなされた。来年度の科研費も申請中。（関連記事が、7ページにあります。）

11. EPS・JGG関係：

（関連記事が、5～6ページにあります。）

(1) EPSの電子化について：

18年度より冊子体での配布を中止し、電子版に移行する。機関購読においても電子版契約を可能とする。学会側からは以下のアクションが必要：会員番号と名前（アルファベット）のリストの出版社への提供、入退会情報の出版社への提供、登録方法の会員への周知

(2) JGGバックナンバーの電子化について：

- ・JSTの電子アーカイブ事業の対象誌に選定された。
- ・創刊号から全ての号の所在が確認でき、スキャンのために譲渡または借用できることになった。
- ・著作権の問題：
JGGは著作権の帰属が明記されていず、移譲の手続きも行われていない。
他学会の例に倣い、学会ホームページ、会報、EPS、EOSなどに、JGGの電子化に関連する著作権の許諾についての告知を出すことにする。

1 2 . 男女共同参画 :

「女子高校生夏の学校」が科学技術への顕著な貢献として表彰された。今年度は物理学会が主催したが、来年度は文科省主催で行う。木戸委員、長妻委員が参加予定。SGEPSSへの共催協力依頼も行う予定。(関連記事が、8ページにあります)

1 3 . 学会将来問題検討WG :

学会連合ができた現在、SGEPSSの抱える問題は何か、WGが果たすべき役割は何かについて意見交換を行った。(関連記事が、4ページにあります)

1 4 . 今年度秋学会報告 :

昨年の秋学会(9月28日~10月1日、京都大学)について以下のような報告があった。

発表件数:405件(口頭207件、ポスター198件)

参加者:496名(一般会員275名、学生会員50名、一般非会員36名、学生非会員135名)

予稿集販売部数:332冊

会計関係:参加費収入:50万7千円、予稿集売上げ:66万4千円

懇親会参加者:260人

その他:

- ・現在の電子投稿システム:手がかかる。セキュリティに問題がある。
- ・口頭発表の重複について:特別セッション以外に口頭発表の重複は許さないというルールを、招待講演者に対しても適用した。コンピーナー制をとるとき、全体で重複がないかどうかチェックする必要がある。
- ・非学会員が招待講演する際の講演会参加料について、事前には決っていなかったが、会員扱いとした。

1 5 . 来年度秋学会情報 :

来年度の秋学会の準備状況についての報告があった。

1 6 . 会報発行予定 :

3月3日原稿依頼、3月24日原稿締切り、4月20日発行、の予定。(門倉 昭)

会費納入についてのお知らせ

平成17年度の会費納入率は2月28日現在75.8%(うち一般会員76.3%、学生会員75.9%)に留まっています。これは例年の水準(95%以上)

に比べて非常に低い状況です。会費減収は健全な学会運営に重大な支障をきたしますので、滞納のない様をお願いします。納入状況等ご不明な場合には事務局までご連絡ください。

・会費納入方法の追加

当学会の会費納入方法について、平成18年度より以下のように追加することにします。

- (1) コンビニエンスストアでの支払い(従来通り)
- (2) 銀行振込(従来通り)
- (3) 銀行口座自動引き落とし(新規)
- (4) クレジットカード払い(新規)
- (5) 学会開催時窓口での支払い(昨年秋学会より)

口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては学会が手数料を負担します。支払いを忘れがちな方には、口座自動引き落としが便利でお得です。詳細については同封の別紙をご参照ください。

・学会時の窓口での支払いについて

平成18年度連合大会においては、5月15日午後、および16日朝~15:00を予定しております。(石井 守)

学生会員資格の更新および退会申請について

メールでもお知らせしましたが、学生会員資格は1年ごとの更新となっています。学生会員の更新を希望される方は、以下のホームページにある説明に従い、4月末までに手続きしていただくようお願い致します。更新申込みされない場合は、一般正会員扱いになりますのでご注意ください。
<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/#nyukai>

また、前年度限りでの退会を希望される方につきましても、上記ホームページの説明に従い、4月末までに退会手続きをしていただくようお願い致します。

入退会手続きについて不明の点がありましたら、学会事務局宛てにお問合せ下さい。

(門倉 昭)

学会将来構想検討WGの総括

これまで、第22期2003年から第23期2005年にかけて5回にわたって、学会将来構想検討ワーキンググループの会合が開かれ、様々な議論が行われましたが、このたび以下に示すような総括を行い、いったん活動を停止することになりましたので、ここに報告します。

1. 前期からの引継による検討課題

学会活動（特に秋学会）の活性化

連携WGの活動の推移を見ながら将来構想を考える 連合が成立したため不要。

新しい学会名称を考慮したセクション制のイメージを作る

2. 連合成立を踏まえて出された主な意見

(ア) ワーキンググループのあり方

連合成立によって議論の方向性を変えるべき。結論を急ぐ必要はない。

連合の中での学会のidentityを如何に保つか。Section制もひとつの方法

連合・SGEPSS双方に所属するメリットは？助成や賞がある。

SGEPSSの周辺分野を取り込む必要は、最早ないので？

大型プロジェクト推進（予算獲得）のための方策が必要。新しい学術会議では科研費審査委員を送り込むシステムがなくなる。科研費については、本WGと別に議論すべき。

連合という枠組みの中で、SGEPSSの活性化を図る必要がある。

(イ) 学会の現状に関する問題点

連合成立によってSGEPSS内の工学系の会員が離れてゆく可能性あり。分科会活動をより活発にすることにより対処できないか？

学会は学問体系として何を指すのか？不明瞭。

若い研究者が増えたが、中年層が少ない。

学会を大きくするだけでなく、長期目標・中期目標の下に学会の具体的な目標を明確に示すべき。

若い人をひきつける工夫が必要。

理学系の“連合”が成立した現在でSGEPSSの工学系をどうするか？

(ウ) 秋学会の活性化についての具体策

学生発表賞を創設した

平成17年度秋学会では工学系および小

型衛星に関する2つの特別セッションが行なわれた。宇宙天気については、レギュラーセッション化の方向。

今後も秋学会で他学会との共同セッションを積極的に企画する。ただし、場所および時期をいかにして合わせるかという問題を解決する必要がある。

(エ) 他学会との関連

工学系との接点・連携が必要である。

惑星科学会との違いを意識しつつ、連合の中での連携をはかる必要がある。

(オ) 連合の中のSGEPSSという視点

連合のもとで、SGEPSSと惑星科学会の有志グループを作り、提言を募るべき。

連合学会で、工学系グループ（太陽光発電）とSGEPSS（宇宙天気）で特別セッションを企画する。機械学会の宇宙分野も取り込んでどうか？

AOGSとの連携を強化する

男女共同参画・ポストク問題において、連合の中でSGEPSSが当面は中心的役割を果たす必要がある。

連合の中で地学教育充実への提言等を行う。

3. まとめ

(ア) 連合体制のもとで学会活動を活性化するために、さまざまな考えが提案された。今後は、これらが学会運営、分科会活動、連合との連携などに具体的に活かされることが望ましい。

(イ) 学会名称の検討を含む組織改革については、セクション制などの案が出されたが、連合が発足して間もない時期に結論を急ぐべきではなく、しばらく時間を置いて改めて議論するのが適当である。

(歌田久司)

2005年EPS賞の報告

2005年EPS賞は、田中佐千子氏（防災科学技術研究所）に授与されることが決定しました。

授賞論文

Sachiko Tanaka, Masakazu Ohtake, and Haruo Sato, "Tidal triggering of earthquakes in Japan related to the regional tectonic stress", Earth Planets Space, 56, 511-515, 2004.

授賞理由

This paper reports the results of an investigation of the relation of earth tides to earthquakes. The authors focused on small events with a magnitude of 2 or greater that occurred at a depth of 70 km or less as reported in the catalog of earthquakes for 1997 to 2002 and published by the Japanese Meteorological Agency (JMA). The active areas of the earth were divided into 100 regions where more than 200 earthquakes occurred within an area of 1-degree by 1-degree. The seismicity of each region was correlated with the earth tides. The authors found statistically significant correlations in 13 regions, where the P-axes of the earthquakes estimated from focal mechanisms agrees with the maximum principal axis of the tidal stress tensor when both the direct solid Earth tidal terms and the indirect ocean loading terms are included. These results indicate that earthquakes in these 13 regions are triggered by Earth tides.

Earlier studies report both positive and negative correlations between Earth tides and earthquake occurrence. The high quality data provided by JMA allowed the authors to clearly show that the correlation exists, but in regions where the local stress is close to the critical condition required for an earthquake to occur. These results are recognized internationally as the first such evidence. They also demonstrate the benefit of studies that cross classical scientific disciplinary boundaries, i.e., seismology, earth tides and oceanography.

After 2002, several large earthquakes occurred within these 13 regions where the authors found the critical conditions to exist. These include the Aki-nada, Miyagi-Oki, Tokachi-Oki, Mid-Niigata, and West-off Fukuoka earthquakes. This study provides a new index for identifying the critical condition for earthquakes to occur with a given area, and may lead to a new approach in earthquake forecasting.

Recognizing the importance of this paper and the fundamental contributions that Sachiko Tanaka has made to earth science, we select her as the recipient of the EPS prize for 2005.

(山崎俊嗣)

EPS電子版へのアクセス方法 について

EPS誌は、平成18年度より電子版主体の運営に移行します。これに伴い、Vol.58 (2006) No.4以降は冊子体の発送を行いません。会員の皆様には、電子版をご利用いただきますようお願いいたします(注1、2)。電子版のアクセス方法を以下にご説明します。

まず最初に、以下のWeb Pageにある出版社(テラパブ)の閲覧登録システムにアクセスして、会員であることの確認を受けパスワードの発行を受ける必要があります。

<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/SGEPSS/index.php>

(学会HPからリンクを設けます)

そのとき、IDとして当学会識別符号のM(半角大文字)に続けて会員番号を入力下さい(注3)。例えば、会員番号12345678の方はM12345678です。Last Nameには、半角アルファベットで姓を入力下さい。先頭は大文字、以下は小文字でお願いします。入力が終わると、登録システムからIDとパスワードが発行されます(注4)。IDは入力した会員番号と同じになります。

登録以降は、このIDとパスワードを用いて、EPSのWeb Page (<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/index.html>)から論文フルテキストをダウンロードできます。なお、会員にはメールでコンテンツサービスを行います(注5)。

機関購読においても電子版のオプションを設けています。所属機関が電子版を契約している場合には、IDとパスワードによる認証によらず電子版にアクセス可能です。

(注1) 冊子体が必要な方は、年額6,000円で購読可能です。希望者は直接出版社(テラパブ)にお申し込み下さい。

(注2) シニア会員にはこれまで冊子体の発送を行っていませんでしたが、電子版へのアクセスはできます。

(注3) 会員番号をお忘れの方は、当学会の事務委託先である(株)プロアクティブにお問い合わせ下さい(電話:03-3585-8167)。

(注4) 登録は1回のみ可能です。パスワードを忘れないようお願いいたします。なお、本稿執筆時点ではユーザーによるパスワード変更はできない仕様になっていますが、出版社で改良中であり、近々変更可能となる見込みです。万一パスワードを忘れた場合は、テラパブにお問い合わせください(電話:03-3718-7500)。

(注5) 現在当学会からのご案内がメールで届いている方には、自動的に送られます。メールアドレスの新規登録・変更は、学会HPにある会員専用ページ((株)プロアクティブの会員管理システム)内の個人情報ページにてお願いします。

ご不明の点がございましたら、運営委員会(雑誌担当:山崎、齋藤)までお願いします。

(山崎俊嗣)

EPSよりお知らせ

皆様の積極的な投稿をお願いします。

1. 以下のサービスを行っております(期限を設けず当面継続予定)。

(1) カラー2ページまで無料!

(2) 著者にpdfファイルを進呈

2. EPS賞を設けました

投稿時35才以下の若手の優秀な論文が対象。副賞あり(国際研究集会出席のための渡航費)。2006年の賞は、2004、2005年掲載論文を対象。2007年以降も同様(1年ずつ平行移動)。

3. EPSは速い

平成15年度投稿論文における実績:投稿受付から掲載まで平均213日、最短51日。査読期間は1ヶ月程度を目標としています。

JGG誌の電子公開に伴う 著作権の確認について

地球電磁気・地球惑星圏学会では、1949年から1997年に論文誌 *Journal of Geomagnetism and Geoelectricity*(以下、JGG誌と呼ぶ) Vol.1~49を刊行しました。今回、科学技術振興機構(JST)が行う電子アーカイブ事業の対象誌として採択され、また、出版社テラパブの協力を得て、JGG誌の全号を電子化し公開することを予定しています。JGG誌においては、掲載された論文の著作権の帰属について取り決めがなされていませんでした。JGG誌の後継誌として当学会を含む5学会共同で現在刊行している論文誌 *Earth, Planets and Space*においては、原則として著者の同意を得て5学会が著作権を持つことが論文に明示されています。当学会はJGG誌においても著作権は当学会に帰属するものと考え、電子版を公開します。著作権が当学会に帰属しても、著者自身の利用を妨げるものではないことは現状と変わりません。JGG誌の掲載論文の著者、または相続権を持つ遺族の方で、万一この措置に異議がある方がおられる場合は、2006年5月末日までに当学会運営委員会までお申し出下さい。(山崎俊嗣)

SGEPSS ホームページ用 ドメイン取得について

現在、SGEPSSのホームページの運用は、京大大学生存圏研究所のWEBサーバーをお借りして行っていますが、18年度からは、外部サーバーをレンタルし、現在のコンテンツ、システムを順次移行し、年度中に外部サーバーを用いたSGEPSSホームページ運用を開始する予定です。これに先立ち、SGEPSS用の独自ドメイン取得について運営委員会で検討を行い、sgepss.orgを取得する運びとなりました。まずは、外部サーバーの契約を行い、サーバー上にこのドメインを設定し、現状ホームページ上の静的なコンテンツを移転することから始めます。この静的コンテンツ移転完了後、新しいホームページアドレスを会員に周知し、テスト運用を開始したいと思います。(臼井英之)

総会開催のご案内

第119回総会を、連合大会期間中、下記の日に開催します。

開催日時：5月16日（火）12:30～13:30

会場：幕張メッセ国際会議場1階

レストランNOA（オーシャンB）

学会賞授与、名誉会員推挙などの重要な議事がありますので、是非ご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に同封の委任状を会長宛に郵送いただくか、運営委員にお渡しください。

2006年秋学会での「特別セッション」の提案募集

2006年秋学会（11月4日～7日）での「特別セッション」のご提案を、広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。以下の内容を添えて電子メールにてご応募下さい。

1. コンビナー：お名前、所属、ご連絡先
2. セッションタイトル
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模（参加見込人数）

応募先メールアドレス：

sgepssPG2006@st4a.stelab.nagoya-u.ac.jp

締切：5月10日（水）

応募されたご提案は運営委員会で検討し決定した後、公表・周知いたします。多数のご応募をお待ち致しております。尚、ご質問等は運営委員会・プログラム委員（山本、関、石川）までご連絡ください。

「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特別セッション」は次のような内容を議論する場として位置づけられています。

レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容（時機にあった話題、重要テーマなど）

当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。これまでの特別セッションテーマは以下の通りです。

・2004年秋：「宇宙天気」

・2005年秋：「宇宙進出とSTP科学の接点」

「SGEPSSにおける小型衛星の可能性」

（石川尚人）

アウトリーチ部会活動報告

2005年度も昨年度に引き続き、約30名のアウトリーチ部会メンバーと8名のアウトリーチ担当及び広報担当運営委員とによって、以下の活動が展開されました。中でもコアとして活躍された10人弱の部会メンバーのみなさま、とりわけ加藤雄人会員、山本真行会員には、この場を借りてお礼を述べたいと思います。

[2005年秋学会]

9月27日の午後1時30分より約3時間に渡り、京大プレスルームにおきまして、記者発表が開かれました。本大会で発表されたコンビナー推薦の論文の中から、部会の意見を参考に会長によって5件が選ばれ、PCプロジェクターを用いた著者本人によるプレゼンテーションが行われましたが、新聞社、放送局など約10社の記者などの方により、熱心な質疑応答が交わされました。その中から、複数の新聞に記事として掲載されたものもありました。

[アウトリーチイベント-- 青少年のための最新宇宙地球環境科学入門]

文部科学省の成果公開促進Bの補助(92万円)を受けまして、一般向けの講演会及び質問コーナーが、秋学会と平行して10月1日土曜日午後1時から5時まで、京大会館において開催されました。前半は、横山由紀子会員、前田佐和子会員によって先端研究が易しく紹介されました。続いて隣接する部屋で、7人の若手研究者が質問に答える「教えて！はかせ！コーナー」と、当学会の関連する研究機関で進められている研究活動を紹介する展示ブースの公開が行われました。会場を閉める間際まで、質問がよせられ、大変熱気に溢れた企画となりました。参加者は小学生からシニアの方まで幅広く、また人数も

約100名と多かったのですが、やや高い年齢に重心があり、今後若い世代にアピールする工夫が必要と感じられました。また、講演会場や質問コーナーでは、インターネットをもちいてスウェーデンのキルナやウブサラの日本人研究者とリアルタイムで会話することもでき、大変好評でした。このイベントに先立ち、部会でポスターを作成し、京都市内の中学・高校、全国の科学館・図書館に2000部を配布し、またA4のカラーのちらしも5000部を配りました。

[改訂パンフレットとリーフレット]

先年度作成したA1裏表1枚のパンフレットを、SGEPSSアウトリーチ部会のアドバイザリーボード（主に学会外の有識者に委託）の意見を反映させ改訂し、1000部を印刷しました。また、A4裏表8ページのリーフレットをアウトリーチ部会の山本真行会員を中心に新たに作成しました（詳細は山本会員の記事をご覧ください）。

[衛星設計コンテスト]

SGEPSSが主催者の一員となっている「衛星設計コンテスト」には、これまで実行委員として会長および高橋が、また審査委員として山本衛運営委員が参加しています。それらに加え、2004年9月より、コンテストをより魅力的なものにするための議論を行う場として企画委員会が設置され、その委員として細川敬祐会員に参加いただいています。本年度は高校生の参加するジュニア部門を新設するなどの成果が得られています。SGEPSSは、コンテスト主催中唯一の理学系学会として、理学工学の橋渡し役を務めており、今後他の地球惑星系学会への参加呼びかけも行うことにしています。（高橋幸弘）

学会リーフレットが 完成しました

アウトリーチ部会では、学会活動を広く一般に紹介する際に配布可能な冊子として「リーフレット」の制作を進めてまいりましたが、このたび完成いたしましたので御紹介させて頂きます。次回の総会にて現物を御笑覧頂ければ幸いです。

本リーフレットは、文部科学省・平成17年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公开发表（B）」の補助を受けて開催した“青少年のための最新「宇宙地球環境科学」入門”の一環として、一般公開イベント参加者へ



（SGEPSSリーフレットの表紙）

の配布を目的に作成致しました。従来のパンフレット（A4版3つ折サイズ）に加え、より深く関心を持ってくださる層に配布して研究領域を詳しく知っていただけるよう心がけました。昨夏頃より部会メンバーを通じて図版を収集し、各領域担当をお願いした会員（主に部会メンバー）には各領域の簡潔な解説文を執筆して戴きました。これらの素材を元に冊子全体のデザインは業者に委託し、A4版8ページのカラー冊子（観音折り）が出来上がりました。リーフレットの表紙を開くと、中扉部分に「未知なる世界へ」のキャッチコピーがあり、背景に配した気球が大空に飛んでいくイメージを重ねて研究領域の簡単な説明を記しました。中扉を開いたA4版4ページ分のスペースには、8テーマに区分した各研究領域の解説を最新画像を交えて具体的に記しました。

アウトリーチ活動と致しましては、これまでに秋学会の際の一般講演会&質問コーナーに加え、講師紹介・派遣も開始されているところです。このような学会アウトリーチ活動にて、本リーフレットを配布すると共に、連合大会のブースや一般参加者向けセッション会場での配布を予定しております。皆様方におかれましても種々の御講演を各地で開かれていることと存じます。ぜひ学会リーフレットを御活用ください。リーフレット利用を希望される会員は、アウトリーチ部会まで



(SGEPSSリーフレット見開き面)

御相談ください。できる限りのご要望に応じたいと思います。アウトリーチ担当運営委員（高橋、北、木戸、長妻）までご連絡ください。

本リーフレット制作にあたり、Peter Sloss氏 (NOAA/NGDC)、毛利勝廣氏 (名古屋市科学館)、杉田考史氏 (国立環境研究所) 並びに以下の会員諸氏に御協力戴きました。尾花由紀、加藤雄人中村 匡、中川朋子、徳丸宗利、河野英昭、村田健史、北 和之、佐藤 薫、木戸ゆかり、山崎敦、高橋幸弘、土屋史紀、橋本武志、関華奈子、三好由純、臼井英之、船木 實、藤井良一 (敬称略、順不同)。また以下の各機関より貴重な画像を提供頂いております。米国NASA、JAXA 宇宙科学研究本部、名古屋大学太陽地球環境研究所、京都大学生存圏研究所、京都大学火山研究センター、東北大学惑星プラズマ・大気研究センター、海洋研究開発機構・東京大学地震研究所、海洋研究開発機構地球シミュレーターセンター (順不同)。この場をお借りして、御協力くださいました皆様ならびに各研究機関に御礼申し上げます。

(アウトリーチ部会・山本真行)

男女共同参画提言WG報告

SGEPSSが2004年度から正式参加している男女共同参画学協会連絡委員会の活動も、2005年10月7日の第三回連絡会シンポジウム終了後、幹事学会と役員を一新し、第四期の活動期に入った。2ヶ月に一度の連絡会運営委員会に、SGEPSS男女共同参画WGも参加している。

1. SGEPSS共催で開催したH17年度「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」が科学技術政策研究所の「科学技術への顕著な貢献in2005」の<理解増進・教育部門>で顕彰された。(http://www.nistep.go.jp/notice/nt051227.htmlを参照ください。) 本企画は、ナイスステップ in 2005に選定され、今年の科学技術週間(4月18日から3週間)に、国立科学博物館にて10件のナイスステップの一つとしてパネル展示を行う予定。また、H18年度も同企画が内閣府、文科省共催事業として実施されることになった(8月17日-19日)。SGEPSSも共催として企画運営に関わる予定である。
2. 文科省では、人材の育成、確保、活躍の促進のため、H18年度、科学技術振興調整費のモデル事業、日本学術振興会の女性研究者支援事業(パートタイム型特別研究員の創設(運用改善)、復帰支援型特別研究員の創設(平成18年度 2億2000万円)などの競争的資金システムの予算措置がなされ、科学技術関係の人材養成プランが進められている。
3. 日本地球惑星科学連合においても、男女共同参画の活動を展開するべく、まずは、前田評議員を中心に、各学会に対して「男女共同参画 委員会設立準備会」への参加よびかけを行っている。連合内の委員会設立に向けて、学会間の意思の疎通をはかり意識を共有しながら、委員会の課題や組織方針を検討するため、準備会を結成することを呼びかけた。

この準備会では、

- 1) 各学会や研究機関における男女共同参画の取り組みに関する情報を交換するとともに、
- 2) 委員会設立に向けた具体的な準備を行っていく。(木戸ゆかり)

国際学術交流事業補助金 受領報告

宇宙航空研究開発機構 栗原純一

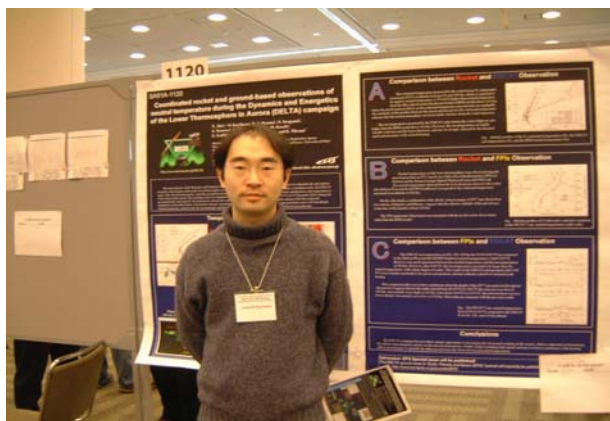
この度、本学会の国際学術交流若手派遣事業の補助金をいただき、2005年12月5日から9日にかけて米国のサンフランシスコで開催されたAGU Fall Meetingに参加させていただきました。貴重な機会を与えて下さった本学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

これまで自費や他の補助金制度で何度か国際学会に参加させていただくことはありましたが、AGUへは初めての参加でした。以前から友人たちにAGUの規模の大きさやその内容の充実度について聞かされており、参加を切望していたものの機会に恵まれませんでした。今回、私は「Neutral dynamics during geomagnetic storms」というセッションにおいて「In situ observations of neutral temperature and density in the polar lower thermosphere during the DELTA campaign」というタイトルで口頭発表を行いました。この発表では昨年12月にオーロラ擾乱時における極域下部熱圏の力学とエネルギー収支の解明を目的として北欧で行ったロケット・地上総合観測キャンペーンの結果について報告しました。下部熱圏における中性大気温度の測定は極めて困難ですが、我々は電子ビーム蛍光法を応用したロケット搭載型測定器を開発し、窒素分子の温度と密度をin situで同時観測することを行っています。本キャンペーンでも中性大気温度のロケット観測

と、地上のEISCATレーダーによるイオン温度観測やファブリ・ペロー干渉計による中性大気温度観測との比較を試みました。比較の結果は、互いに整合的である一方で、従来のMSISのような経験的モデルとはかなり異なっていることがわかりました。したがって、オーロラ擾乱時の下部熱圏大気シミュレーションへの入力パラメータとして、中性大気の実験的モデルを採用することは、大きな問題があることを示唆しました。

現地に持ちこんだノートPCが故障するなどの予想外のトラブルもありましたが、当日は何とか無事に発表を終えることができました。発表後には会場の内外で多くの研究者に声を掛けられ、質問を受けたり、時には名刺を交換したりして、今後の自分の研究にとっても有益な発表ができたと思います。また、翌日には第2著者として関連するポスター発表があったのですが、こちらでも前の講演で興味を持ってくれた多くの方々が見に来てくれました。噂通り、AGUのポスターセッションは他の国際学会とは比較にならない規模の参加者で、その内容のレベルも高いものも多く見られました。発表をする方も見る方も、そこで何かを得ようという意識があり、とても有意義な議論をすることができました。今回初めてポスターの縮刷版を作って配布したのですが、説明は聞かずにそれだけ持って帰る人もおり、効果のほどはわかりませんが、非常に好評でした。私の活動するAeronomyの分野では若手が比較的に少なく、ポスター前で立ち話をする余裕のある人があまりいないことも一因かもしれません。逆にそれが幸いして、ほとんど同じセッションを聴いて回っていた海外の若手研究者と知り合いになりました。一緒に食事をしながら、研究に関する話題だけでなく、海外のポストクの就職事情などを教えてもらったりして、今までにない交流をすることもできました。

最後に、今回の国際学術事業のおかげで大変貴重な経験ができたことに改めて深く感謝するとともに、今後もこの事業が継続され、多くの若手研究者に活用されることを希望致します。



国際学術交流事業補助金 受領報告

九州大学大学院総合理工学研究院

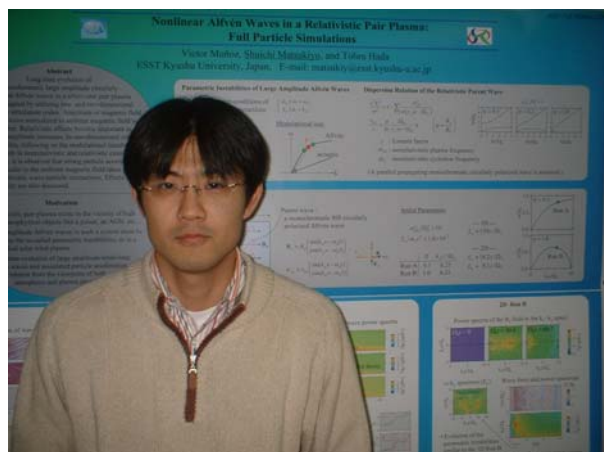
松清修一

この度、本学会の国際学術交流事業による援助をいただき、2005年12月5日から9日にかけて米国のサンフランシスコにて開催されました、AGU Fall Meetingに参加させていただきました。貴重な機会を与えてくださった本学会および関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

私は、“Contributions of Space Plasma Studies to Our Understanding of Fundamental Astrophysical Processes II”というセッションで口頭発表を行い、無衝突衝撃波フット領域における微視的不安定性に関する2次元粒子シミュレーションの結果を紹介しました(タイトルは:2D PIC Simulation on Microinstabilities in the Foot of High Mach Number Quasi-Perpendicular Shocks)。高マッハ数垂直衝撃波フット領域において、線形解析から予想される複数の不安定性の競合過程に注目した報告を行いました。発表の後で、これまで面識のなかった研究者と議論する機会を得たり、また、観測的な視点から有意義な示唆をいただくことができました。期間中、海外共同研究者と率直かつ詳細な意見・情報交換ができたことも収穫でした。

例年1万人規模の参加者を数える本学会では、地球物理関係のあらゆるテーマが議論されますが、今回も数多くの世界最先端の研究成果に触れることができ、期間中は大変有意義な時間を過ごすことができました。このような大きな国際会議では珍しいことではありませんが、スケジュールがかなりタイトでパラレルセッションも多いため、残念ながら聞き逃した発表も多いのですが、国内の学会ではなかなか接することのできない幅広い内容の発表を聞くことができるのは利点の一つだと思います。特に今回、ヘリオシースに到達したというボイジャー衛星の報告は、会場に入りきれないほど多くの研究者の関心を集めていました。非常に刺激の多い学会でしたが、ここで得た知見を生かして、今後の研究活動に役立てるべく、精進して参りたいと思っております。

今後も本事業が継続され、多くの若手研究者に国際学術交流の機会が与えられることを希望



しますとともに、改めて、この度のご支援に感謝申し上げます。

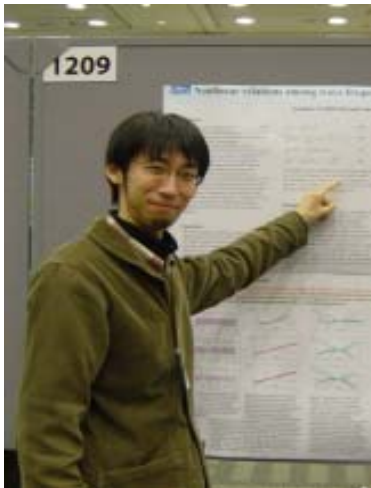
国際学術交流事業補助金 受領報告

九州大学大学院総合理工学府 成行泰裕

このたび、2005年12月5日から9日にかけて開催されたAGU(アメリカ地球物理学連合)2005 Fall meetingにおける研究発表に際し、本学会の国際学術交流事業のご援助を頂きました。修士課程の学生に貴重な機会を与えて下さった学会および関係者の皆様に心から感謝致します。

今回、私は「Nonlinear relations among wave frequencies and phases in parametric instabilities of Alfvén waves」というタイトルでポスター発表をさせていただきました。発表では、1次元Alfvén波の変調不安定性を題材にして、MHD乱流中の非線形過程を波動の位相や周波数の情報から特徴付ける手法、および数値実験を用いて解析した結果について報告しました。最終日の発表であったにもかかわらず、大勢の方が参加されているセッションに所属させていただき、多くの方々と議論を交わすことが出来ました。

太陽風など宇宙プラズマ中には、非常に発達したMHD乱流が頻繁に生成されていますが、その中に含まれている構造や物理過程を理解することは宇宙プラズマ物理における大きな課題の一つです。この課題が困難であることの原因の一つとして、宇宙プラズマにおけるMHD乱流中の物理過程が線形の重ね合わせで記述できるものではなく、非線形性が顕著な系であるということがあげられます。例えば、乱流場が線形の重ね合わせとすると、波動の位相はランダムとして



扱えますが、非線形性を考慮する場合には波動間に有限の位相相関が生成されます。しかし、これまでのMHD乱流についての理論の多くは非線形性を非常に弱いと考える近似的なものでした。現在直面している課題の困難さは、このような「線形的な」理解に基づいて、本質的に強非線形であるMHD乱流の理解を試みていることにあります。このようなことを受けて、本研究では将来的に宇宙プラズマで観測されるMHD乱流中の「非線形の」物理過程を抽出することを目的としています。今発表では、Alfvén波の変調不安定性にともなう非線形発展の結果、実空間上の孤立波に対応した直線状の非線形分散関係（モード凝縮）が生成されることを数値的に示した結果、およびそれに関する解析についてご報告させていただきました。解析結果としては、それらの直線分布の傾きが最大パワーを持つ波数モードの位相速度に対応していること、直線分布の生成にともなう分散性のワレンの関係が生成されていることを重点的にお話させていただきました。時間帯にも恵まれたのか、最終日にもかかわらず色々な方が話を聞いてくださり、コメントを残してくださいました。持参していた論文刷りも全部無くなり、ありがたいことでした。

反省点としまして、まだまだ英語が不自由であることと、体調管理が不十分だったこと（2日目の夜に食べ過ぎて胃を壊して、3日目以降はうどんとサラダばかり食べていた）が特にあげられます。辞書と常備薬によって最終日は無事に発表をすることが出来ましたが、ご同行してくださった方々には多大なご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。他にも多くの反省点の残った学会ではありましたが、その分得るものも大きかったと実感しております。SGEPSS若手派遣事業の関係者の方々に改

めて御礼申し上げます。

最後に、博士課程のみならず修士課程の学生の方々が積極的に今制度を利用し、国際学会へ参加されることを強く希望いたします。

関連研究集会のご案内

第12回大気化学討論会

主催：大気化学研究会

開催日：2006年6月14日～16日

会場：山形蔵王温泉 こまくさ荘

内容：対流圏・成層圏を中心とする大気化学および関連する諸分野の研究者が集い、最新の研究成果の発表を行うと共に、意見交換や今後の研究計画を話し合うことを目的としています。

参加および発表申し込み先：

touron@caos-a.geophys.tohoku.ac.jp

講演申込締切：5月6日(土)必着

申し込みの記載項目

[参加登録] 参加をご希望の方は、電子メールで次の内容をご連絡下さい。

- 1) 参加者氏名
- 2) 所属 (TEL、FAX、E-mail)
- 3) 宿泊希望の有無と日程、
- 4) 6月15日の懇親会参加希望の有無

[講演申込] 講演をご希望の方は、電子メールで次の内容をご連絡下さい。

- 1) 講演題目
- 2) 申込者氏名と連絡先 (TEL, FAX, E-mail)
- 3) 発表形式 (口頭、ポスター)
- 4) 講演要旨
A4サイズ1枚 (マージン上下30mm、左右25mm) に、講演題目、発表者氏名 (講演者に丸印)、所属、要旨をご記入下さい。尚、要旨はPDFファイル形式で作成して下さい (PDFファイルでの投稿が難しい場合は、WordまたはText形式で作成して下さい)。また、特殊文字の使用はなるべく避けて下さい。

連絡先 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院理学研究科大気海洋変動観測
研究センター 青木または渡邊宛

電話：022-795-5793、FAX：022-795-5797

mail: touron@caos-a.geophys.tohoku.ac.jp

詳細・最新情報はWebPageにて
[http://caos-a.geophys.tohoku.ac.jp/
touronkai/touronkai.html](http://caos-a.geophys.tohoku.ac.jp/touronkai/touronkai.html)

学術賞・研究助成のご案内

(財)宇宙科学振興会 平成18年度国際研究集会への 参加費用支援募集

趣旨：(財)宇宙科学振興会(理事長武井俊文)では、研究助成の一環として国際研究集会への参加費用支援を行っております。従来は35歳以下の若手研究者のみを対象に支援を行っていましたが、今年度からはシニアの研究者(63歳以上)も対象に加えることにいたしました。詳細は下記ホームページをご参照の上、申請書を財団宛お申し込み下さい。

支援対象：宇宙理学(地上観測を除く)および宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている若手研究者(昭和46年4月2日以降生まれ)、またはシニアの研究者(大学・研究機関を退職し、海外旅費の取得が困難である63歳以上の者)で、国際研究集会での論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。時期的な理由で、論文の発表採択が未確定の場合でも申請できます。申請についての詳細は、下記照会先ホームページをご参照下さい。

支援金額：一件あたり10~25万円程度

申込受付時期：(年3回)

7月1日以降の出発者：5月15日迄

11月1日以降の出発者：9月15日迄

3月1日以降6月末迄：1月15日迄

なお特別な理由のため、申し込みが上記時期に間に合わなかった場合には、その直後の申し込み時期に、理由を付して申し込むことも出来ます。

照会先：(財)宇宙科学振興会事務局

<http://www.spss.or.jp/>

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1

JAXA宇宙科学研究本部内

E-mail: zaidan@spss.or.jp

TEL:042-751-1126

第10回(平成18年度) 久保亮五記念賞

趣旨：日本の統計物理学・物性科学における波及効果の大きい基礎的研究で優れた業績をあげた45才未満の若手研究者に対し、賞状、メダル及び賞金100万円を贈呈する。

受賞件数：1件(毎年)

募集方法：関係専門分野の有識者及び財団の久保亮五記念賞事業運営委員会委員からの推薦

締切：平成18年6月30日

連絡先：財団法人井上科学振興財団

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15 南
平台今井ビル601

TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747

第23回(平成18年度) 井上研究奨励賞

趣旨：過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35才未満の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者に、賞状、メダル、および研究奨励金50万円を贈呈する。

受賞件数：30件

募集方法：博士論文を指導した研究者の推薦に基づき学位を授与した大学の学長からの推薦

締切：平成18年9月20日

連絡先：財団法人井上科学振興財団

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15
南平台今井ビル601

TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747

参考：当学会会員では、平成16年度に津川卓也会員及び平成17年度に横山竜宏会員が受賞。

第23回(平成18年度)井上学術賞

趣旨：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた、50歳未満の研究者が対象。学術賞として、賞状及び金メダルと副賞 200万円が授与されます。本学会の評議員会の議を経て候補者1名が推薦されます。

会長締切：平成18年8月12日(土)必着(本学会の評議員会の議を経るため)

推薦締切：平成18年9月20日必着

連絡先：財団法人井上科学振興財団

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15
南平台今井ビル601

TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747

参考：当学会会員では、平成11年度に寺澤敏夫会員が受賞。

第8回井上フェロー(平成19年度)

趣旨：基礎科学分野の新しい開拓的發展を目指す45歳未満の優秀な中堅研究者が、自身の研究計画の發展のため、自身が選定する若手研究者を井上フェローとして採用し、当該研究の推進に協力させるための助成。井上フェローは全体で10名。博士号取得者(35歳未満)。フェローには月額35万円の研究奨励金を支給(必要な場合は、往復国際航空運賃も支給)。平成17年度(平成17年4月1日、又はそれ以降)に採用、期間は2年。ただし、自己の研究室出身者以外から選定すること。

応募資格：国公立大学の原則として大学院博士課程の教員、並びに大学共同利用期間に所属する常勤研究者。45歳未満の者。

申請受付：平成18年4月1日～9月20日

申請用紙請求・応募先：

財団法人井上科学振興財団

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15
南平台今井ビル601

TEL:03-3477-2738 FAX:3477-2747

関連公募のご案内

名古屋大学太陽地球環境研究所 教員公募

公募人員：助手 1名

所属：電磁気圏環境部門

仕事の内容：電磁気圏環境部門では、地球磁気圏からのエネルギー流入に伴う極域電離圏・熱圏の擾乱過程と、下層大気から輸送されて

くるエネルギーと運動量が上部中間圏と熱圏を含む超高層大気内で散逸する過程を解明するため、国内外での電波・光技術を用いた観測をもとに研究を進めています。今回の公募では、当該部門が推進している欧州非干渉散乱レーダー(EISCAT)などのレーダーを用いた極域電離圏・熱圏の研究を發展させるとともに、レーダー実験やデータ解析などで全国共同利用や国際協力・連携を推進できる方を希望します。更に、大学院理学研究科の協力講座に参加し、学生の教育にも熱意をもって取り組んで頂ける方を希望します。

着任時期：決定次第、出来るだけ早い時期

応募資格：博士号取得者、または採用時までに博士号取得見込みの者

提出書類：(1)履歴書、(2)今までの研究のまとめ、(3)業績リスト(主要論文(3編まで)のコピーを添付)、(4)研究計画書、(5)2名の方からの推薦書又は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面。

なお、提出された書類は返却しません。

書類送付先：〒464-8601

名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛

封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書き、書留にて送付願います。

公募締切：平成18年5月19日(金)(必着)

問合せ先：

(1) 研究内容について

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学太陽地球環境研究所

野澤 悟徳 Tel:052-789-4303

mail:nozawa@stelab.nagoya-u.ac.jp

(2) 公募内容について

名古屋大学太陽地球環境研究所長

藤井 良一 Tel:052-747-6301

mail:rfujii@stelab.nagoya-u.ac.jp

選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会で選考し、同運営協議会の意見を求め、同教授会で決定します。

本研究所の教員(助手)の公募に関連して提出された個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、選考を通過した方の情報を除き、全ての個人情報を責任を持って破棄いたします。

また、本研究所では男女共同参画を積極的に推進しています。

学会賞・国際交流事業関係 年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月31日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし/問合せは運営委員会	-
国際学術交流若手派遣	運営委員会総務	5月1日,7月14日 10月16日,2月2日
国際学術交流外国人招聘	運営委員会総務	若手派遣と同じ

SGEPSS Calendar

06-05-14 ~ 18	日本地球惑星科学連合2006年大会(幕張メッセ)
06-07-10 ~ 14	Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2006 (シンガポール)
06-07-16 ~ 23	36th Committee On Space Research (COSPAR) Scientific Assembly (北京、中国)
06-07-24 ~ 27	Western Pacific Geophysics Meeting (WPGM) 2006 (北京、中国)
06-07-24 ~ 28	第23回レーザー・レーダー国際会議 (奈良)
06-09-17 ~ 23	18th International Workshop on Electromagnetic Induction in the Earth (El Vendrell, Spain)
06-11-04 ~ 07	第120回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(相模原)
(SGEPSSホームページ(カレンダー)から、各集会等のホームページまでリンクしています)	

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 本蔵 義守 〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学理工学研究科地球惑星科学専攻
TEL: 03-5734-2341 FAX: 03-5734-3537 e-mail: yhonkura@geo.titech.ac.jp

総務 小川 康雄 〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学火山流体研究センター
TEL: 03-5734-2639 FAX: 03-5734-2492 e-mail: oga@ksvo.titech.ac.jp

広報 北 和之(会報担当) 〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 茨城大学理学部
TEL: 029-228-8400 FAX: 029-228-8405 e-mail: kita@env.sci.ibaraki.ac.jp
河野英昭(会報担当) 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部地球惑星科学科
TEL: 092-642-2671 FAX: 092-642-2684 e-mail: hkawano@geo.kyushu-u.ac.jp

運営委員会(事務局) 〒107-0052 東京都港区赤坂4-1-32赤坂ビル3階
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局気付

TEL: 03-3585-8167 FAX: 03-3585-8163 e-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

エコー計測器(株)

〒182-0025
東京都調布市多摩川2-3-2
tel. 0424-81-1311
fax. 0424-81-1314
URL <http://www.clock.co.jp/>

NEC東芝スペースシステム(株)

〒224-8555
横浜市都筑区池辺町4035
tel. 045-938-8230
ext: 8-399-2590
fax. 045-938-8324
ext: 8-399-2559
URL <http://www.ntspace.jp/>

クローバテック(株)

〒180-0006
東京都武蔵野市中町3-1-5
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

(有)テラ学術図書出版

〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 5-27-19
三青自由ヶ丘ハイム2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

(有)テラテクニカ

〒206-0812
東京都稲城市矢野口 3266-1
ランド式番館
tel. 042-379-2131
fax. 042-370-7100
URL <http://www.tierra.co.jp/>

(株)夏原技研

〒532-0012
大阪市淀川区木川東 3-6-20
第五丸善ビル
tel. 06-6390-8418
fax. 06-6390-8436

日鉄鉱コンサルタント(株)

〒108-0014
東京都港区芝4丁目2-3いすゞ芝ビル5F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

富士通(株)宇宙システム部

〒261-8588
千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通システムラボラトリ
tel. 043-299-3247
fax. 043-299-3012
URL <http://jp.fujitsu.com/>

丸文(株)営業本部航空宇宙部 計測機器課

〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
tel. 03-3639-9821
fax. 03-3661-7473
URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気(株)宇宙機器技術部

〒302-0192
茨城県守谷市百合ヶ丘3-249-1
tel. 0297-48-8209
fax. 0297-45-3023
URL <http://www.meisei.co.jp/>